



NO.1558
2025・4・27

発行
北見民報社
TEL. 25-5121
FAX. 61-7478
北見市幸町1-1

使用料の値上げは、市財政が苦しいから？

「使用料・手数料」議会審議開始

使用料・手数料を大きく引き上げるとした、使用料等検討委員会の答申を受け、市は現在の使用料金の大幅値上げを市議会に提案しました。これらの審議が、今月25日から始まりますが、市の財政が大変になったから、公共施設の料金も上げなければとする考え方も聞こえてきますが、それでは使えない施設と言うことになっていくのではないのでしょうか？

使用料等検討委員会への諮問文

検討委員会 委員長 様
北見市長 辻 直孝
使用料等のあり方について (諮問)
(前略)
当市の使用料、手数料は、定期的に見直しを検討してきた。(中略)
令和7年10月に向けた、次期見直し検討時期を迎えるにあたり、専門的な知見を有する方々のご意見を聞いたうえで、公平な受益負担の観点から使用料・手数料の適正化を図りたいと考えており、その指針をお示し願いたい。

市長は、使用料・手数料検討委員会に、右枠にある文書で公共料金の検討を求め(諮問)ました。
この文面を見る限り、市財政の大変さがあるからと
実態だし、『物価高騰による市民の深刻さ』も限界に達している状況で、使用料

講演「一番最初に飢えるのは日本」 農業地帯にも激震！

—— (参加者の感想文から) ——

4月13日開催の「食と農のつどい」での、鈴木宣弘教授の講演。280人が聞き入りました。日本の食料は輸入に頼られない、しかし、自国の農業政策は農家を守られず、後継者不足の中、離農する農家も続出している。今後食料の自給率を上げられるのか？50余りの感想文。寄せられた声を紹介！

★農業の状況も解りやすい話し。日本がアメリカのいいなりであることで、国民に大きなしわ寄せを受けている。本当の怖さを知る国民が少なく、危険な食料を安いという理由で買っている人がたくさんいる。鈴木先生ががんばっている。私も周りの身近な人に、聞いた内容を伝えていこうと思います。(北見民商 A)

◆農業の関係者ではないが、食の問題は生きて行く上で、全人類の問題なので、無関心ではいられない。高齢で農業は始められないが、小さな家庭菜園ならできるので、トマト1個でも採れたらなと思います。(田畑町 I)

▼開催ありがとうございます。オホーツクではまだ危機感がない。支持政党や考え方は違っても、ご飯は同じく食べる。視野を大きくとらえたい。(小清水 W)

実行委員会は、「農業者だけではなく、消費者も共感してくれた講演会だった。食と農を守る運動がいよいよ求められていて、消費者と生産者が連帯した運動をおこしていかなければ」と、若い世代を巻き込んで、継続していく方向性を確認しました。

メーデー 北見集会

5月1日～17:30
JR北見駅前広場

17:00～準備開始
17:30～集会
18:00～デモ行進
19:00～終了予定

道内各市の使用料の上限改定率

自治体名	料金改定の際の上限改定率の有無		上限改定率
	無	有	
札幌市	○		なし
旭川市		○	50%
函館市	○		なし
苫小牧市		○	10%
帯広市		○	20%
釧路市	○		なし
江別市		○	改定率の限度 30%
北見市		○	20%
小樽市	○		なし
千歳市		○	50%
室蘭市	○		なし

等々の検討では考慮して当然です。これまでの検討経過からして検討委員会での、上限改定率50%の提示は、市財政の背景が強調され過ぎた結果見えません。この背景がなければ、もっと低い『上限改定率』の提示案も委員会として提示できなかったのではないのでしょうか？

上限改定率50%は、道内では少数派

道内の主な市で、使用料金の改定に際して『上限改定率の目安』を持っている市の状況が、検討委員会の資料として、右の表が示されました。

「春には・・・」桜が咲いたと大騒ぎ！確かに、綺麗な桜並木の間を走る時、私も大好きですが、さて、水芭蕉の群生地、網走の湿地帯も素敵！残念なのは、ゴミや枯れたススキなども一緒に混じっていること！水芭蕉の清々しさが埋もれてしまうのです。一緒に行くTさんは、『綺麗が台無しになる』と、毎年、ゴミを拾い、枝を片付け・・・でも、一人や二人で少々の時間片づけても追いつかない。百人くらいで袋を持って、「せーの！」で片づけたら、ものすごいスピードで片づきそう！なんでもそうかもしれない、と思う。小さい力を白集めたら、大きな変化が生まれそう！「自分ひとりくらい」と思うこともありますが、その「一人」がとっても大事で次の誰かに話すことで、大切なのは、そこで止めてしまわないことではないでしょうか。



北網圏北見文化センター取組

常設展示コーナー作品紹介



『引込線のある倉庫』

岡崎 公輔 氏

わたしのイチ推し

第一四四回

春の苦手!

名なしおばさん

雪が溶けて、日当たりの良い所はつじがチラホラ花ひらく季節です。春は待ちに待った嬉しい季節ですが、一つ困ったことが…。
雨の降った早朝。お日様が少し出てくる時間に外に出てみると、3〜15cm程の細かいもの。枝か? 枯葉の茎か? いいえ、ミミスです。車道に



も歩道にも、よけて歩くのも大変なくらい沢山います。暖かい所を求めて土の中から出てきたのでしょいか? でも、勘弁して下さい。ミミス苦手なんです!

全国うまいもの市

初日から多くの入場者が、わくわくした足取りで会場に足を運びました。パラポのイベントには、いつも多くの人立ち寄り。



今回は、沖縄からの出店が並んでいるブースもあり、「遠くから来たのだなあ」と売上が気になるところ。ワイワイした会場内に呼び込みの声が響きます。

小さな子がケーキのショーウィンドウの前で、ひとつひとつを指さして評論している場面を見つけ、楽しく聞かせていただきました。

第38回 憲法を読む103人のつどい

5月3日(土) 10:00 ~ 12:00

北見市民会館1号室

参加費500円(中学生以下300円)

講演

「植民地支配の歴史を隠す逆流とどう向き合うか」

北海道教育大学札幌校准教授

本庄 十喜 さん

主催:北見から憲法を考える会

連絡先:事務局 川崎 090-3777-4919

代表:森下 一彦



◆紙智子 国会かけある記◆



参議院議員

紙 智子

政治を変えようの思いを共有

道北も田畑の雪が溶け農作業が始まりました。19日、名寄市「食と農と希望を語るつどい」に向かう途中の田んぼの畦には、ふきのとうがいっぱい。たくさん白鳥が渡りの途中、羽を休め落ち穂を食べる姿に春を感じます。

近隣自治体からの参加者を含め会場いっぱい。米農家、酪農家、消費者の立場から発言があり、地域農業の実態や政治の責任を考え、希望ある未来のために政治を変えようとの思いを共有しました。翌20日は旭川の駅前ひろばで「春色トクハライブ」。あいにくの雨でしたが、真下紀子道議の司会で「ドキドキわくわくの対話形式」。はたやま和也参院比例、宮内しおり道選挙区両予定候補とともに参加し、私が国会報告をした後、働き方・賃上げや、物価高騰、トランプ関税にどう対峙するか等の質問に、三人で丁寧に答えました。

名寄市の前に、和寒町の農家の方を訪ねました。特産は、カボチャ(日本一!)とキャベツ。雪の中で越冬させたキャベツは甘みを増し、年明け1〜3月に出荷されます。みずみずしさが保たれ、比較的高値で取引されます。コメ不足、価格高騰、水田活用交付金制度の水張り問題などで意見交換。かつて約400戸あった農家は約180戸、「高齢化と後継者不足で、今後5〜10年間で3分の2まで減るのでは…」と話されました。

対話・アンケートの取り組みを広げ、日本共産党の立場を知ってもらうことが大切だと改めて実感しました。

名寄市の「つどい」は